

開花前のジベレリン散布による ブドウ「巨峰」「ピオーネ」の摘粒作業の省力化

ブドウ栽培において摘粒は、高品質な果実を生産する上で必須な作業です。しかし、摘粒には多大な労力を必要とし、また、作業時期が短期間に集中するため、経営規模の拡大を阻害する要因の一つになっています。そこで、山梨県果樹試験場では、開花前の花穂にジベレリンを散布して花穂を伸長させ、着粒密度を低下させることにより、摘粒作業時間を削減する技術を開発したので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 「巨峰」「ピオーネ」の無核栽培において、展葉5枚時の花穂にジベレリン5ppmを散布すると、花穂は伸長が促進され、花穂整形時には無散布（慣行）区の1.2～1.4倍の長さになります（写真）。
2. ジベレリンを散布した花穂は無散布区に比較して着粒密度が低下するため、花穂整形後の果房当たりの着粒数は無散布区より大幅に減少します。
3. 開花前のジベレリン散布作業が加わりませんが、その後の、摘粒作業時間が「巨峰」で3～5割、「ピオーネ」で2～4割程度、削減されるので、全体として作業時間の省力化が図れます。
4. 果粒の初期肥大は良好で、果粒が密着すると摘粒が困難になるので、その前に摘粒します。
5. 果実の品質は、無散布区と同等です。



写真 ジベレリン散布による花穂の伸長

☆ 活用面での留意点

1. 散布はハンドスプレーなどを用い、新梢に飛散しないよう、花穂を中心に行います。動力噴霧機などで新梢全体にジベレリンを散布すると、翌年に結果母枝の不発芽などの障害が発生します。
2. ハンドスプレーでの散布に要する時間(使用液量)は、短梢せん定樹で約6時間(12L)/10a、長梢せん定樹で約12時間(18L)/10aです。
3. 房の先端3.0～3.5cmを残す慣行の花穂整形で、房がやや小ぶりになることがありますが、商品性は十分です。
4. ブドウの花穂伸長を目的としたジベレリンの農薬登録は、平成19年3月付けで、「巨峰系4倍体品種（「巨峰」「ピオーネ」など）」の無核栽培に適用が拡大されています。
5. 詳細については、山梨県果樹試験場・栽培部・生食ブドウ栽培科（電話：0553-22-1921）にお問い合わせ下さい。